



# Malawi Voice vol.5

～アフリカの国・マラウイからのおたより～

青年海外協力隊 平成27年度3次隊  
言語聴覚士 飯田知美

## ごあいさつ

バングラデシュのダッカでとても悲しい事件が起こりました。派遣国や派遣形態は違えど、同じJICAの関係者の方が命を落とされたことにとっても大きな衝撃を受けています。「途上国の発展のために」という同じ志を持った仲間がなぜこのような形で…と深い悲しみを感じずにはられません。亡くなられた方のご冥福と、負傷された方の1日も早いご回復を祈っております。先日、マラウイで活動するJICAボランティア全隊員が首都に集まり、年2回開催される“安全対策連絡協議会”に参加しました。日々の安全や防犯、健康について考えさせられるとても貴重な機会となりました。「ここは平和なマラウイだし、自分は日本人だし」と、妙な自信を持ってしまっていたことを反省しました。“自分の身は自分で守る”という大前提を肝に銘じ、改めて気を引き締めて活動を続けていきたいと思えます。しかし、そんな矢先、長距離移動の疲れと、悲しいニュースによる精神的なショックからか、マラウイに来て初めて体調を崩してしまいました。上司にも事件の情報は伝えていたため、すぐに家を訪ねてきてくれ「マラウイは大丈夫、そんなに深く思い悩まないで」と声をかけてくれました。心配をかけてしまったことに申し訳なさを感じながらも、その温かい心遣いは嬉しかったです。今は無事回復しています。

5月27日、この日は広島にとって、そして日本にとってとても意味のある1日となりました。アメリカのオバマ大統領が現職の大統領としては初めて広島を訪れました。このニュースはもちろん日本だけではなく、世界中で報じられ、私の任地で唯一英語で聞くことができるラジオ番組“BBCニュース(for Africa)”でも放送されました。10年以上広島で生活をした、元広島市民の私にとっても関心の大きな出来事でした。原子爆弾が広島に投下され、第二次世界大戦が終戦してから間もなく71年。“核兵器のない世界”という広島の願いはまだまだ達成されてはいませんが、世界各地で起こる悲しい事件がなくなり、目の前にいる子どもたちの笑顔が絶えることのない世界であり続けることを願いながら、日々の活動に向き合っていきたいと思えます。

2016年7月  
飯田知美

## マラウイの交通事情



アフリカの交通事情と聞いてどんなイメージを持っていますか？私はマラウイに来るまで、「移動手段は基本的には徒歩か自転車。道路にバイクや車が少し走っていて、富裕層のみが自家用車を所持している」というイメージを持っていました。しかし、実際にこの国に来てみると、驚いたことにかかなり多くの車両が走っています。今回はこの国の交通事情についてご紹介したいと思います。

自動車…自家用車の所持率はあまり高くありませんが、特に都市部では車を所有しているマラウイアンもいます。以前紹介しましたが、マラウイではかなり多くの日本車が走っています。最も多いのはトヨタ車ですが、他にも日産、マツダ、ホンダ、イスズ車もよく見かけます。スバルやスズキ車はあまり見かけません。

バイク…プライベート用のバイクを所持している人はあまり多くない印象です。バイクタクシーという形で、大型バイクをよく見かけます。ちなみに JICA ボランティアの中でも、特に農村部を回るような活動をする隊員（コミュニティ開発という職種の方が多い）には、JICA からバイクが貸与されます。

自転車…自転車は農村部でもよく見かけることがあります。ただし農村部と都市部では自転車の使用方法が異なります。都市部では日本と同じく“人の”移動用として使われることが多いですが、農村部では、炭や薪やメイズの粉を運ぶ等、“物の”移動用として使用される機会が多いです。



首都リロングウェのショッピングモールの駐車場です。この日は平日でしたが、たくさんの車が停まっています。写真では分かりづらいですが、やはりほとんど日本車です。

JICA から貸与されるバイク。  
(先輩隊員の家で撮影)



## 【公共交通手段】



ミニバス…貧富の差に関わりなく、多くのマラウイアンが利用するミニバス。トヨタのハイエースや、日産のキャラバンのような大人数乗りの乗用車が使用されています。日本の中古車を何年も使用しているので、ほとんどがマニュアル車で、走行距離はどのバスのメーターを見ても 200,000 km を超えています。日本では 11 人乗りの車ですが、マラウイでは助手席を改造して、助手席 2 人 + 運転手 + 後部座席 1 列 4 人 × 3 列 + コンダクター（お金を集めたり乗客の乗降を仕切る人） = 16 人乗るのが基本です。そのため車内は満員電車のような空間になります。そしてマラウイアンは車の扱いが雑？なため、車は傷だらけで、窓がなかったりプラスチックの板に変わっていたり、フロントガラスにはかなりの確率でヒビが…。座席も固く、お世辞にも乗り心地が良いとは言えません。



ミニバスの車内の様子。（走行中）  
この日は最高で 23 人の人が乗っていました。

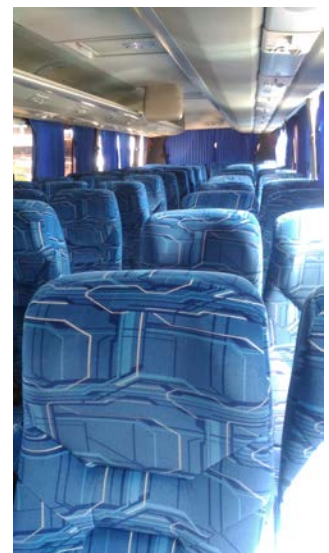
大型バス…日本の路線バスと同じ車両や、スクールバスのような小型バスが使用されています。長距離を移動する際に利用されます。

高速バス…マラウイに数社しか運営していない高級なバスです。日本の高速バスと同じ車両で、乗り心地も良いです。ただ、運賃はかなり割高になるため、外国人や富裕層しか利用できません。

最も運賃の高い PBS 社の高速バスでは、車内サービスがあり、軽食や飲み物がついています。きれいな制服を着た女性のバスガイドさんもいます。リロングウェ〜ブランタイヤ間を約 4 時間半で移動します。



私が知っている限りマラウイで最高値段のバスです。右がバスの内装です。リロングウェ〜ブランタイヤで 9,500 クワチャ（2,000 円程度）です。最近 2 ヶ月連続で値上がりしました。



自転車タクシー…JICA 隊員の間で“チャリマト”と呼ばれています。自転車の後部の荷台にシートが取り付けられています。主に、農村部や山の中のようなオフロードでよく見かけます。私の任地も、バスデポ（バス乗り場）からこのチャリマトで30～40分かけて移動します。段切り替えなどついていないので、かなりの力仕事です。そして長い坂道を登るときは、乗客は降ろされ、歩いて登ります。



バイクタクシー…大型バイクに2～3人乗りで利用します。こちらも主に農村部で見かけることが多いです。ただし、JICA ボランティアは安全のため、バイクタクシーの使用は禁止されています。

トゥクトゥク…私はアフリカ独自の乗り物だと思っていましたが、アジアの途上国でも広く利用されているようです。写真のような、3輪バイクのような乗り物で、マラウイでは首都のリロングウェでしか見かけません。最近、南部の大都市ブランタイヤでもトゥクトゥクを見かけた！という目撃談を耳にしました。



トゥクトゥクです。個人的にすごく好きな乗り物です。特に暑い日は日差しを浴びずに風を感じられるのでとても快適に過ごせます。

タクシー…日本でタクシーというとセダン型の車をイメージしますが、マラウイではどんな乗用車もタクシーになります。「タクシー（使う）？」と声をかけてきた車がタクシーです。時々、“TAXI”のマークがついていることもありますが、基本的には一般車と見分けがつかません。乗り合いタクシーというものもあり、決まった目的地に複数人で利用する、ミニバスの普通乗用車バージョンのものもあります。こちらの方が料金がかなり安くなります。



## 6月の活動の様子



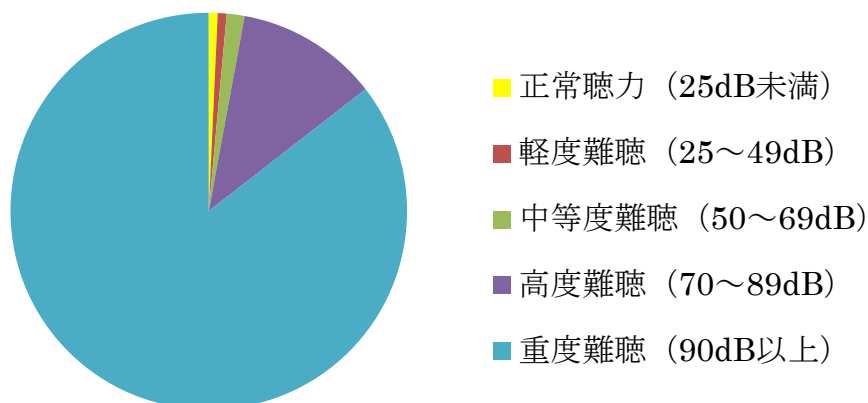
6月は5月に引き続き、主に聴力評価（聴力検査）を行いました。全校生徒（現在学校にいる生徒）約140名の検査が終了しました。今回は全員初めての検査だったため、気導聴力検査のみを実施しました。その後、日常の聞こえの様子や、発音の様子から「もう少し聴力が良いのでは…」と感じたケースを中心に再検査を行い、骨導聴力検査にもトライをしました。

まだまだ同僚との英語や現地語のコミュニケーションがうまくいかないため、興味を持って部屋を訪れてきてくれた先生に、機械の使い方や、オーディオグラムの見方などの説明をしました。次のタームは担任教師が直接生徒の聴力検査を実施できるように支援していきたいと思っています。

1回目の検査を終え、感じたことですが、重度難聴児が非常に多く、さらに平均聴力レベルが120dBを超える最重度難聴児が多いです。一方、正常聴力の生徒もいました。

※個人情報の問題もあるため、あえて具体的な数字は載せていません。また、検査回数を重ねることで、より小さい音に気付けることも多いため、今回の結果はあくまで大まかな目安です。

1回目の聴力検査での平均聴力レベル  
(4文法による算出、良聴耳のみ)



Standard 1 -D の生徒。  
骨導検査に初めてトライしました。今回は初めてなのでマスキングはなしで実施。

Standard 1 -A の生徒。今年度最年少の生徒。  
ボタン押しは難しいけど、音が聞こえると満面の笑みで耳に手を当てて教えてくれます。



～生活の様子など～



Standard 1 – D のアートの授業。粘土（土）で焼き物を作る体験型の授業でした。下が生徒の作品です。動物は焼いている間にパーツがバラバラに…



スタッフルームでのティータイムの様子。ティータイムの時間と、会議の時に使われる部屋です。ティータイムはこの部屋で過ごしたり、家に帰ったり、寮で生徒と遊んでいます。この日は、白人ボランティアが活動を終えるため、全職員が集まって紅茶とパンを食べながら談笑しました。



同じく Standard 1 – D の体育のような授業。この日は大縄跳びをしていました。私も参加しました。

大体いつも空き時間は大きい女子生徒たちとこの階段でチャットングをしています。

朝のそうじの時間。大きい男子生徒は主に草刈りが仕事。この日はグラウンドの草刈りをしました。この変わった草の刈り方については、また別の機会にご紹介します。



6月に2件、他隊員の任地の見学を行いました。

1件目は、リロングウェの近くのムテザで青少年活動という職種で活動をしている先輩隊員の任地へ。マバンゴンベプライマリースクールで行われた合唱コンクールを見学しました。

周辺の学校10校が集まり、前半の部（Standard3）と後半の部（Standard6）に分かれて合唱を披露し、審査員が評価をして競い合うというイベントでした。今回私は、当日指名で審査員という大役を務めました。曲は各校2曲で、課題曲（マラウイ国歌）とオリジナル曲を披露しました。オリジナル曲はそれぞれの学校が工夫をこらし、衣装を身に着けたり、ダンスをしたり、寸劇を取り入れたりと見ていてとても楽しかったです。そしてコンクール終了後（審査結果の集計の間の時間）には、開催校のStandard7の生徒たちが、日本の“ソーラン節”と“ヒップホップダンス”を披露してくれました。マラウイに来て「ソーランソーラン♪」と掛け声を発する日が来るとは思ってもみませんでした。

見学をしてみて、腰の重いマラウイアンの先生たちが（しかも複数校の先生が）協力し合って、ここまで大きな一つの行事をやり遂げる姿（それを陰で支える先輩隊員の姿）に感動しました。

### ～ ムテザ合唱コンクール ～



ホールは出場者で満員状態。地元マラウイのテレビやラジオも取材に来ていたり、プログラムやトロフィもあり本格的でした（下の写真）。



マラウイ国歌。歌うときには胸に手を当てて歌います。

オリジナル曲。  
この学校は手作りの衣装とダンスを組み合わせていました。



ソーラン節です。日本人なら（遊びやテレビのマネも含めて）一度は踊ったことがあるのではないのでしょうか。  
「ソーラン ソーラン♪」の瞬間です。衣装も本格的。



2件目は以前から一度は行ってみたいと思っていた、メアリービュー聴覚特別支援学校。ここで PC インストラクターの職種で活動をしている隊員の見学へ。メアリービューは、マラウイ唯一の特別支援教員の養成校である“モントフォート特別支援教育カレッジ”の敷地内にあります。つまり、ここがマラウイの特別支援教育の中枢になります。今回は時間の都合上、大学の見学はできませんでしたが、メアリービューの見学、さらに、その隣にある視覚障害児の学校（外観のみ）も見学することができました。マウンテンビューの生徒からは、「同じマラウイでも学校によって手話が全然違う！」と聞いていましたが、基本的な会話で使う手話はほとんど同じでした。他校の初めて会う生徒と会話が成立した時、マラウイに来て初めて“語学（手話）”で自信を持てた瞬間でした。

### ～メアリービュー聴覚特別支援学校～



こちらの学校も全寮制です。写真は生徒たちの寮。最近改修（外壁の塗り替えなど）が行われたようで、とてもきれいでした。大きい男子生徒の寮だけ少し離れた所にあります。

授業の様子。  
この学年はマウンテンビューと同じくらい的人数ですが、学年によっては人数がとても多く、椅子が二列になっているクラスもありました。



コンピューターの授業。マウンテンビューではこの授業はありません。メアリービューでは、Standard5以上の生徒が必修で週に1～2限あるそうです。中には故障しているパソコンもありましたが、なんとプロジェクターまであり、充実したIT環境に驚きました。



敷地内にある視覚障害児の学校。健常児も通う学校で、3年生までは別々、4年生以降は視覚障害児と健常児と一緒に授業を受けるそうです。

